

1月 営農インフォメーション

水稻・麦の管理のポイント

小麦 …ほ場巡回を行い、排水対策の徹底と適期・適量散布の追肥を指導してください。

野菜 …家庭菜園では作付けの年間計画をたてましょう。

【小麦】

○生育状況

11月上中旬の播種ほ場では、12月19日時点では平均草丈15.3cm、1㎡あたりの草丈は336.1本でした。昨年と比べ草丈は短いものの茎数は多い状況です。

○今後の管理

◎分施肥体系(基肥→追肥→穂肥)の場合

追肥施用について

基肥を標準量施用しているほ場の追肥は1月に施用するほうが増収効果がえられます。特に、茎数が多い場合(300本/㎡以上)には、追肥を早めてしまうとチツソ分が穂肥施用前に切れる恐れがあるため、茎数が多い場合は追肥施用を1月中～下旬に遅らせましょう。

※1月に入っても茎数が300本/㎡より少ない場合は、出来るだけ早く追肥を行いましょう。

◎一発肥料・2タッチ施肥(基肥→穂肥)の場合

基本的には追肥の必要はありませんが、早播きなどで過繁茂になっているほ場は、肥切れをおこさないように、2月上旬～中旬の葉色を見て追肥を判断しましょう。

○排水対策

麦は排水対策が重要です。麦の安定収量・品質向上のため、ほ場の排水対策を徹底するように指導してください。排水不良のほ場では根の活力が低下し、肥料を十分吸収できなくなり、穂数が確保できず減収に繋がります。施肥前は特に留意し、特に年末、年始の大雪により排水溝の肩がくずれていないか、尻水戸まできちんと排水できているかを確認してください。排水溝がふさがってれば、溝さらえを行い、降雨・降雪時に地表水が停滞しないように溝を切りましょう。



排水対策の様子

【野菜】

1年を春～夏、秋～冬、周年に分けて、各野菜の作付計画を立てましょう。

春～夏は、生育適温が高めで強い光を好むナス科、ウリ科、イネ科等の野菜が中心になり、秋～冬は、アブラナ科やキク科、セリ科、アカザ科等の葉根菜類が中心になります。根深ネギ、シヨ

ウガ、サトイモ等は、生育が春～秋の周年になります。また、畑での生育期間が秋～冬になる葉根菜類もあります。

同じ科の野菜を同じ場所に続けて栽培すると特定の肥料成分の欠乏や、センチュウや土壌病害虫の発生が助長されます。計画を立てる際には、各科の野菜を組み合わせた輪作を心がけましょう。

○連作障害について

【原因】

- ・前作の野菜に寄生していた病害虫が土の中に残り、次に植えられた同じ種類(同じ科)の野菜を害する場合
- ・前作の野菜の根から分泌された特殊な成分が土の中に残り、それが次に植える野菜に悪い影響を与える場合
- ・土中の肥料成分が極端に不均衡になっている場合 など

【対策】

- ・畑をいくつかのブロックに分け、植えつける場所を1年ずつずらす輪作を行う。
- ・同じ場所で植えつける場合には、接ぎ木苗を使用したり、耐病性の品種を利用する。
- ・土壌伝染をする病気が原因の場合、土壌消毒を行う。
- ・完熟堆肥を施用し、土中の微生物群の不均衡の改善をほかる。

連作障害の例

科目	作物名	連作障害の病状
ナス科	トマト	青枯病、萎凋病、センチュウ害
	ナス	青枯病、萎凋病、センチュウ害
	ピーマン	立枯病、センチュウ害
	ジャガイモ	そうか病
ウリ科	キュウリ	急性萎凋病、つる割病、センチュウ害
	スイカ	
	メロン	
マメ科	エンドウ	立枯病
	ダイズ	立枯病
	インゲン	根腐病
アブラナ科	キャベツ	根こぶ病、萎黄病
	ハクサイ	根こぶ病、黄化病
キク科	ゴボウ	萎凋病
	レタス	根腐病、すそ病
アカザ科	ホウレンソウ	萎凋病

連作障害の出やすい野菜・出にくい野菜

連作障害の出やすい野菜	エンドウ、ナス、スイカ	7年以上休載
	ゴボウ、トマト、ピーマン、サウダイコン	5～6年休載
	ダイズ、シロウリ、ナガイモ、サトイモ	3～4年休載
	キュウリ、ジャガイモ、インゲン	2年休載
連作障害の出にくい野菜	サツマイモ、カボチャ、ニンジン、タマネギ、ネギ、コマツナ、シュンギク、ニンニク、ショウガ、フキなど	